

令和5年度高校生議会提案事項の対応方針

番号	議員名	項目名	担当課	答弁者	質問要旨	答弁要旨	対応方針
1	鯉口議員 (鳥取壘学校)	鳥取県手話言語条例制定から10年を経た成果と課題～今後のビジョンを考える～	障がい福祉課	知事	手話パフォーマンス甲子園について、各校の練習風景や簡易的な手話解説動画、各地の手話サークルについての情報などを大会のSNS公式アカウントで発信することで、観覧者が一層興味を持ち、実際に学んでみようとする人も増えるのではないかと思います。より手話言語の普及や共生社会の実現に繋がると考えるが、知事の所見を伺う。	いろいろと発信をすることが、さらに手話に対する関心を深めることになるのかなと思うので、ぜひ検討させていただきたい。	手話言語に対する関心を高めるため、手話パフォーマンス甲子園第10回大会では、出場校による大会PR動画、プロ手話パフォーマーが手話表現のポイントを伝授する「how to 手話パフォーマンス」動画を公式動画サイトで公開したほか、テレビ番組で出場校の練習風景を放映し、SNSでも番組PRを行った。 また、駅から会場までの通りに設置した広報用バナーフラッグにQRコードを入れ、フラッグに描かれた手話をすぐに動画で確認できる仕組みを作り、SNSでも発信した。 さらに多くの方に手話への興味を持っていただけるよう、より充実した情報発信を行っていくため、以下事業を令和6年度当初予算案で検討している。 ・とっとり手話フェス2024(全国高校生手話パフォーマンス甲子園等)開催事業 50,755千円
			障がい福祉課	知事	鳥取県全体の聴覚障がい者支援において、聴覚障がい者の多様性を踏まえた視点での施策が講じられるべきと考えるが、知事の所見を伺う。	その当事者の立場に立った、それぞれのニーズにふさわしい社会としてのエチケット、社会の向き合い方というものを県の行政としてもやっていきたいと思う。また、住民や企業にも、聴覚障がいといっても様々なタイプがあると理解をしていたとき、みんなが同じ人間として共に生きていける社会を目指して参りたい。	「聴覚障がい」で一括りにするのではなく、きこえないきこえにくい、それぞれの障がい特性に合わせ、手話を使いやすい環境整備を行うほか、手話を使わない意思疎通支援(要約筆記、音声言語文字変換システム等)の整備を今後も進めていく。 また、あいサポート運動の研修等を通して、聴覚障がいの様々なタイプや、各特性に合わせた手助けの事例などの理解を図っているところであるが、令和6年度にあいサポート運動15周年を迎えるとともに、民間事業者による合理的配慮の提供も義務化されることから、企業や団体への働きかけの強化、地域の方々に対する更なる啓発に加え、各学校におけるあいサポート教育の実施を通じた子どもたちの理解促進(あいサポートキッズの養成)に向けた一層の普及啓発を進めていく。 ・障がい者情報アクセスモデル県推進事業(聴覚障がい関連) 5,403千円 ・手話でコミュニケーション事業 103,580千円 ・聴覚障がい者センター事業(聴覚障がい者意思疎通支援事業) 25,957千円 ・「あいサポート運動2.0」事業 36,482千円
2	筏津議員 淀瀬議員 (倉吉東高校)	鳥取県立美術館の方策と未来	文化政策課	知事	県立美術館の建設を機に、芸術によるまちおこしを通じさらなる地域活性化を図るため、倉吉の街並みを生かした作品の展示を行う芸術祭の開催を検討していただきたいと思うが、知事に伺う。	県だけでやっても上手くいかないものであり、地域の中で、自ら芸術の街としてまちおこしをしようというエネルギーがまずは必要だが、一つの未来への道筋としてあり得るのではないかと。皆さんと一緒に話し合いをしてみたい。	県では「アートで花ひらく地域活性化事業」により、文化芸術を活用した地域活性化の取組を支援しており、令和7年に県立美術館が開館することも踏まえ、県市で連携し文化芸術を活用した地域づくりをさらに進めていく。また、地元倉吉市において芸術祭などを開催する動きがあれば、県としても支援を検討していく。

番号	議員名	項目名	担当課	答弁者	質問要旨	答弁要旨	対応方針
3	豊田議員 福山議員 林議員 (八頭高校)	看護人材の確保と地域包括ケアシステムの構築について	医療政策課	健康医療局長	過疎化や高齢化が進む中山間地域における高齢者の受診環境を確保するため、中山間地域におけるオンライン診療に係る取り組みや移動支援など、市町村と連携し、支援を行うべきと考えるが、県の所見を伺う。	オンライン診療の長所、短所も含め、関係者も交えて、普及に向けた検討、整理を行うとともに、国に対してさらなる規制緩和を求めると、引き続き中山間地域の高齢者の受診環境の整備に努めて参りたい。	地域の身近な医療維持のため、中山間地域の医療機関等が行うオンライン診療の推進に向けた新たな取組(情報通信機器の整備や看護師の現地派遣等)に対する支援制度の創設や市町村(自治体立病院含む)が行う医師確保の取組を支援する制度の創設なども含めた中山間地域の総合的な医療提供体制確保対策について、令和6年度当初予算案において検討している。 また、オンライン診療については、一部規制緩和も行われたところであるが、中山間地域の医療提供体制の確保に向けて、引き続き、関係者の意見を聞きながら、国に対してさらなる規制緩和を求めていく。 ・中山間地域を支える医療人材確保総合対策 46,594千円
4	大野議員 木下議員 三澤議員 (米子西高校)	歩行者と自転車の通行区分の分離について	鳥取県警交通規制課	警察本部長	歩行者と自転車双方の安全をはかるため、歩行者と自転車の通行区分を分けた方が良いと考えるが、警察本部長のお考えを伺う。	まずは道路改良等の機会を通じて、自転車と歩行者の通行空間の分離を要請するなど、より良い道路交通環境の構築に努めて参りたい。また、道路を利用する皆様に適切な広報啓発活動を行っていききたい。	引き続き道路管理者と連携し、歩行者と自転車の通行空間の確保に努めるとともに、あらゆる機会を通じて自転車の安全利用などについて適切に広報啓発活動を推進していく。
			道路企画課	道路局長	路側帯を狭めて歩道をもう少し広げ、歩行者と自転車の通行帯を分けるスペースを確保してはどうか、県の所見を伺う。	停車帯となる路側帯を狭めての歩道拡幅は困難だが、路面標示やポールを設置により通行区分を分離することは1つの手段である。地元関係者、県警等のご意見を伺いながら、今後も安全で安心な走行環境の確保に努めて参りたい。	歩行者と自転車の走行空間を分離する措置については県道米子環状線の一部区間での導入を令和6年度当初予算案で検討しているところであるが、引き続き、地元関係者や警察の意見を伺いながら、こうした措置の導入を含め、安全安心な歩行空間の確保に努めていく。
5	小笹議員 伊糸議員 青戸議員 藤原議員 (米子北高校)	幅広い世代に向けた人口減少対策、将来の世代に向けて	人口減少社会対策課	輝く鳥取創造本部長	人口減少対策として、若い方々が地域の魅力をSNSを通じて発信をしてはどうかと考えるが県の所見を伺う。	県内の若い方々で構成する鳥取若者活躍局とも連携しながら、若者を担い手とした情報発信を一層拡充していくほか、SNSによる魅力発信コンテンツなども開催する予定。ぜひ高校生の皆様にも奮って参加いただき、鳥取暮らしの魅力を広く県内外に発信いただくとともに、本県の魅力の再発見の機会にしていきたいと思います。	鳥取の魅力発信を強化するため、とっとり若者活躍局のほか県内外の鳥取とゆかりのある方を「とっとりdiaryインフルエンサー」に任命し、「#とっとりdiary」を付けてSNSでとっとり暮らしを発信している。令和6年度は高校生などの若者が、多くのフォロワーを有するとっとりdiaryインフルエンサーから魅力発信の仕方を学ぶ企画などを実施することで、情報発信の担い手の輪を更に広げていくこととしている。 また、デジタル環境で鳥取とかわることができるスマートフォンアプリを令和5年度中に構築することとしており、メタバース空間で若者同士が双方向で交流や情報交換を行うコミュニティをつくることで、鳥取の魅力の発信や地域貢献などができる機会を創出していく。
			人権・同和対策課	地域社会振興部長	中山間地域においてもみんなが住みやすいユニバーサルデザインを充実させることで、子どもから高齢者、外国人や障がいのある方等すべての人に優しいまちづくりを目指すべきと考えるが県の所見を伺う。	中山間地域に対する補助事業等にユニバーサルデザインの考え方を反映するなど、市町村とも連携しながら推進を図っているところ。ユニバーサルデザインが行政・企業・県民の取組に反映されるよう充実を図り、人権が尊重され、すべての人に優しいまちづくりを引き続き推進していきたい。	ユニバーサルデザインについての理解を深めるため、出前授業等の普及啓発活動や、多機能トイレ、スロープの設置など全ての人にとって使いやすい建築物の普及の推進のほか、中山間地域における地域活動拠点等の整備改修に係る補助事業等を通じてユニバーサルデザインの導入を支援しているところであり、ユニバーサルデザインの充実に向け、引き続き取り組んでいく。 ・人権教育事業(差別と偏見のない社会づくり推進費) 470千円 ・とっとりUD施設普及推進事業 18,637千円 ほか

番号	議員名	項目名	担当課	答弁者	質問要旨	答弁要旨	対応方針
6	森本議員 松田議員 竹内議員 (鳥取東高校)	鳥取県内の教育現場の改善について	教育環境課	教育長	教室の椅子同士の間隔の確保や生徒の荷物を置くロッカーの整備を検討していただきたい。	教室内にロッカーがある場合は、ロッカーを撤去して別の場所に確保するなど、教室の狭さ解消のための工夫ができないか検討してみたい。	教室内の老朽化したロッカーを修繕する際に、撤去して廊下や別の部屋などに設置して教室を広くするなど、それぞれの学校の状況に応じて検討し、令和6年度は倉吉東高校で取り組むほか、できることから対応していく。
7	水沢議員 (米子南高校)	境港市竹内団地及び近隣の施設整備と観光振興策	港湾課	河川港湾局長	夢みなど公園や公共マリーナの定期的な整備が必要だと考えるが、県の所見を伺う。	引き続き、施設の適切な管理に努めたい。老朽化施設更新を含めた今後の整備計画を策定し、整備を行うこととしている。	竹内南地区の再整備を検討するため、地元関係者をメンバーに加えた検討会を令和5年9月に立ち上げ、境港市主催のワークショップ(令和5年12月)において中高生等が考えた再整備に向けたアイデア等を参考とし、夢みなど公園や公共マリーナを含めて魅力あるエリアとなるような構想を策定中であり、引き続き魅力ある施設となるよう検討する。
			ねんりんピック・関西WMG推進課	スポーツ振興局長兼関西ワールドマスターズゲームズ鳥取県実施本部事務局長	夢みなど公園でのeスポーツイベント実施について県の所見を伺う。	本年、境港市内の様々な場所でeスポーツイベントの開催が行われる予定。夢みなど公園を活用したeスポーツイベントについても、当園の利用を検討いただくよう、県eスポーツ協会や境港市にも働きかけを行っていききたい。	令和5年11月26日に境夢みなどターミナルで開催されたGX.FES(鳥取県主催)にて、eスポーツ大会及び体験会が実施され、幅広い世代が参加して盛況であったところであり、今後も夢みなど公園周辺でのeスポーツイベント実施に向けて、県eスポーツ協会や境港市に働きかけを行う。
8	落合議員 (鳥取西高校)	ヘルメット着用義務化に対する県の姿勢	くらしの安心推進課	副知事	全国に先鞭をつけた鳥取県だからこそ、段階的にでもヘルメット着用の義務化をすべきではないでしょうか。	義務を課すというのが妥当かという、今はそうではない段階ではないかなというふうに考えております。ただ、不断に検討検証、そういったものは続けて参りたいと思います。	ヘルメット着用の義務化については、本県の事故実態やヘルメット着用状況、他県の動向等を勘案しながら引き続き検討していく。 ヘルメット着用の啓発活動として、令和5年度は、自転車用ヘルメット着用の重要性を啓発するチラシを作成し、県警察や市町村等に配布したほか、県警察や県教育委員会と合同で自転車利用者に対する街頭呼びかけを行った(年間4回)。また、「まんが王国とっとりだより」でヘルメット着用に係る特集号を発刊(令和5年11月)し、県下小中学校や高等学校、公共施設等に1万部を配布して、こどもからお年寄りまで幅広く周知を行った。併せて、X(旧Twitter)に適宜、ヘルメット着用の必要性を投稿するなど、県民の理解を深めるよう取り組んでいる。
			くらしの安心推進課	副知事	一定の補助をする取り組みはいかがでしょうか。またそれに対しても予算が必要です。ぜひ知事には検討していただきたいと思いますが、県の所見を伺います。	やはり命を守る行動を取るということで自分の命、そういったものを守るんだと、そういった観点で、だから装着しなきゃいけないんだということ、高校生の方を含めた県民の皆様にはちゃんと理解していただく啓発活動を、まずは私たち行政の方でしっかりと、より一層力を入れて行うべきと考えております。	さらに、令和6年1月現在、ヘルメット着用啓発に関する動画を制作中であり、完成後は「とっとり動画ちゃんねる」を通じてYouTubeにより配信する。 引き続き、様々な方法、媒体により広く県民の理解が促進されるよう取組を行う。